

令和 元年度全国小中学校防災作文コンクール最優秀作品（小学校の部）

人や家族は逃げていると信じて、自分は一生懸命にそして全力で逃げると言う考えに対して、その通りだなと思いました。人の事を優先にして自分が逃げ遅れてしまおうと感じたからです。そして二つ目も、普段の行動と共通しているなと感じました。例として、人に勉強などを教える時、人の事を優先にしすぎて自分のやる事が終わらなくなってしまう。という事があったりします。以上のことから私は一つ目に書いた協力という言葉も大切だと思っていたので、時と場合に応じて行動を変化させるのが適切だと考えました。

三つ目は、人と人との繋がりでです。理由は、震災や津波が起きた後に、警察官の方々や消防署の方々、自衛隊の方々、ボランティアの方々というように様々な人たちとの繋がりが大切と感じたからです。そしてこれも普段の行動と関係していると思いました。例として、分からない問題がある時、友達に教えてもらうという小さな事でも、友達に助けってもら

令和 元年度全国小中学校防災作文コンクール最優秀作品 (小学校の部)

ている関係や繋がりが生まれるからです。そして助けた側にも、困っている時助けてもらった人が助けてくれる、そして助け合いの関係が生まれるのではないかと考えました。以上の事から人と人との繋がりは大切だと感じました。

四つ目は、津波や災害を忘れてはいけないという事です。理由は、このプログラムを受けて津波の体験や亡くなられた人たちの事を忘れてしまうと、この体験の意味がなくなってしまうからです。例として、今年来た台風などでも、家をなくされた方や亡くなってしまった方のことを忘れてしまうと同じことをくり返してしまうと考えました。以上の事から津波の体験や震災を忘れてはいけないと思いました。

最後に、この四つの事から協力や時と場合に応じて対応する力、人と人との繋がりが普段の行動、津波や震災を忘れてはいけないという事が大切だと感じました。そしてこれか

令和 元年度全国小中学校防災作文コンクール最優秀作品 (小学校の部)

ら犠牲者を減らすためにも震災の情報発信
することが大切だなと感じました。このプロ
グラムを受けて自分の震災の考え方や、避難
訓練の仕方などを見直すことができ良い経験
になりました。このプランを震災のときに役
立てたいなと思いました。